

## 2021年度 明海大学歯学部総合型選抜入学試験（I期）

### 解答例

※ この解答と異なる解答について、その内容が正しい場合は正解とする。

#### I.

(1) 各表の上段について、奇数番目には6で割って1余る自然数が、左から順に1から並んでいる。また、偶数番目には6の倍数が、左から順に6から並んでいる。よって、6番目の表の上段は、左から順に1, 6, 7, 12, 13, 18となる。よって、求める数は13である。

(2) 各表の下段について、奇数番目には6で割って3余る自然数が、左から順に3から並んでいる。また、偶数番目には6で割って4余る自然数が、左から順に4から並んでいる。16番目の表の下段の右端から3番目の数は、左端から14番目なので、求める数は $6(7-1)+4=40$ である。

(3) 4番目の表のすべての数の和は、1から12までの自然数の総和であり、5番目の表のすべての数の和は、1から15までの自然数の総和である。よって、求める値は $(1+2+\dots+15)-(1+2+\dots+12)=42$ である。

(4)  $m$ 番目の表のすべての数の和は1から $3m$ までの自然数の総和であり、 $m+1$ 番目の表のすべての数の和は1から $3(m+1)$ までの自然数の総和である。したがって、求める値は $\{1+2+\dots+3(m+1)\}-(1+2+\dots+3m)=9m+6$ である。

#### II.

(1) 50個の値からなるデータなので、中央値は $\frac{1}{2}(52+56)=54$ 点である。

(2) 今回の試験では平均値よりも中央値の方が大きくなっており、あなたの51点という得点は平均値より大きい得点ですが中央値より小さい得点なので、あなたは上位25人の中には入っていません。

#### III.

都市 Q は一年を通して暖かく年間の寒暖の差が小さいが、都市 P は年間の寒暖の差が大きい。また、P, Q のどちらの都市も1910年より2019年の方が気温がやや高めの傾向にある。